

令和6年度（2024年度）第1回東海市環境審議会会議録

1 会議名

令和6年度（2024年度）第1回東海市環境審議会

2 日時

令和6年（2024年）8月2日（金）午後2時から午後3時30分まで

3 場所

東海市役所 501会議室

4 出席者

(1) 環境審議会委員（17名）

福井 弘道、澤木 眞、大橋 直子、久野 辰男、越智 亮、毛利 まり子、山下 妃呂巳、大木 孝二、佐藤 雅之、小野 久仁陸、久野 兼幸、青木 均、山口 純、高井 賢治、高下 秀一、神野 妃代、武富 時満

(2) 市長

公務のため途中退席

(3) 事務局（9人）

小笠原環境経済部長、河田環境経済部次長兼生活環境課長、櫛田ゼロカーボン戦略室長、井上生活環境課統括主任、野々部生活環境課統括主任、中平生活環境課主任、沖縄市派遣職員、株式会社地域計画建築研究所2名

5 欠席者（2名）

北村 秀行、松村 実

6 公開・非公開の別

公開

7 傍聴者

なし

8 会議内容

(1) 会長挨拶

非常に暑い日が続いており、地球温暖化による影響だと考えられる。国では今年5月21日に第6次環境基本計画の閣議決定を行い、2030年を目標として、気候変動や生物多様性、従来型の公害の問題などについて取り組みが進んでいる。東海市においても、気候変動などの環境問題にどのように対応していくか、ウェルビーイング、生活の質を向上させていくという視点をもって、地域課題に対応した東海市ならではの環境基本計画を検討していけるとよい。

(2) 委嘱状交付

ア 委員への委嘱状交付（委員交代2名、市民公募委員2名）

イ 新たに委嘱された委員からの自己紹介

ウ 市長挨拶

現在、第3次環境基本計画の策定を進めており、委員の皆さまに様々なご意見をいただきながら、より良いものにしていきたい。SDGs やカーボンニュートラルの取り組みについて、市民の意識も高まってきており、本市のより住みよい環境づくりに向けて取り組みを進めてまいりたい。

(3) 議題

第3次環境基本計画の策定について

ア 第3次計画の概要

㊦ 事務局より説明【資料1】

㊧ 質疑応答

特になし

イ 計画書素案（第1～2章）

㊦ 事務局より説明【資料2】

㊧ 質疑応答

（委員）生物多様性として具体的に何を考えているのか。

（事務局）今ある地域の自然をそのまま残していこうという取り組みや、在来種を守るために特定外来種等を駆除することなどがある。それを踏まえて、仕組みづくりを整備していくことが大切と考えている。

（委員）降下ばいじんについて、企業の努力、対策は進んでおり、実際に市内の降下ばいじんの量そのものは良くなっていると思うが、一部の市民の方々の中には、例えば埃を降下ばいじんと認識されている方もいらっしゃる。客観的に改善をしていることを市民の方に理解促進することも必要である。

（事務局）その点については、市でもさまざまなご意見をいただいている。市民へのわかりやすい説明や情報提供をしていく必要があると考えており、新たな取組として、市ホームページにおいて「降下ばいじんのよくある質問」として情報をまとめて掲載するとともに、8月1・15日号の広報とうかいでもホームページへの掲載を案内している。

降下ばいじん量は中長期的には少しずつ減っているところではあるが、やはり横須賀地区や大田地区は他の地域と比べると多い状況である。市、県、企業が参加する降下ばいじん検討会を開催しており、こういった場も活用しながら対策を検討していきたい。

(委員) 降下ばいじんと埃をどう分類するか、なかなか難しいところもある。東海市では降下ばいじん量について「めぎそう値」を設定しており、かなりハードルの高い目標であるが、企業においても計画を立てながら対策を進めている。今後もさらに削減が進んでいくように連携を行いつつ対策を行っていく必要がある。

(委員) 健康被害の視点ではどうか。

(委員) 健康被害については聞いたことはない。粒子が粗いので、健康を害するというようなことはないと考えられる。

(事務局) 国で環境基準が定められた際に、 $10\mu\text{m}$ 以下の物質は肺に入りこみ悪影響があることから環境基準が設定されたが、降下ばいじんについては粒子が大きいことから、鼻の粘膜で捕捉されることなどにより、健康被害の影響が大きくないと考えられることで、環境基準が定められなかったという経緯がある。そのため、降下ばいじんとぜんそくなどの健康被害との関連性については、大きな影響はないであろうと考えているもの。

ウ 施策体系

(ア) 事務局より説明【資料3-1、3-2】

(イ) 質疑応答

(委員) 気候変動への対応について、今までは温室効果ガスの排出削減の取り組みだけであったが、排出をとめたとしても温暖化が進むことから環境に適応していくことが必要である。2018年頃から主に国は環境適応に関する取り組みを進めてきたところであり、県や市でも計画に位置付けて取り組まれるということで一步前進だと思う。

(委員) 先日、農作業中の方が熱中症で亡くなられたという新聞記事があった。農家の方は、熱中症アラートが発令されたからといって、畑に行くことをやめるわけにはいかない。そこでお願いしたいこととして、例えば空調服の購入補助をするなどの制度を設けるのはどうだろうか。

(事務局) 意見としてお伺いさせていただき、担当課にも共有させていただく。

(会長) 資源循環の一環として農業の地産地消についても検討されるとよい。環境基本計画推進委員会でそういった議論は出されたか。

(事務局) 緑地の保全という視点で農地を保全するという議論はあったが、地産地消という視点では、特に議論されていない。地産地消による特産

品の推進など、農業振興も含めた複合的な効果につながるような取り組みでもあるので、部内でも調整しながら検討していきたい。

(会長) 環境教育から環境行動に変えるということは非常に良い。行動経済学等の知見の活用なども考えられる。

エ ビジョン【資料4-1、4-2】

(ア) 事務局より説明

(イ) 質疑応答

(委員) ①がよい。ありきたりな未来より、持続可能という少し 難しい言葉をあえて入れることで、市民に覚えてもらえるとうよい。

(委員) ②がよい。地球温暖化問題を受け入れざるを得ない状況の中で、環境に適応していくことの大切さが示されていると思う。

(委員) ①がよい。知多半島と愛知東部の丘陵地をつなぐということをはじめ聞いて、それが分断されるのはよくないと考えている。人と自然が未来をつくるという表現がよい。東海市の位置付けとしても非常に重要だと考えた。

(委員) ①か①がよい。東海市のイメージにマッチしている。持続可能なという言葉を使うことで、市民の方に意識をもってもらいたいという点でよい。

(委員) ①②は漢字が多いのが気になる。東海市のキャッチフレーズとして「〇〇とうかい」が多いので、平易な表現の方が望ましい。

(委員) つながりという言葉は、名古屋港水族館でもよく使われているが、「つながり」でなく、「つなげる」や「つなぐ」という表現の方が、積極的な意思を感じる。そういう視点では③の方が意欲が感じられてよい。

(委員) 言葉の内容を考えると①が良いと思ったが、個人的にすっと入ってくる文言は③だと思う。

(委員) ④と①を組み合わせ、「自然と共生し、持続可能な環境都市とうかい」にしてはどうか。東海市としては、「自然と共生」という部分を大きく打ち出したい。

(委員) ①か③がよい。なかなか絞りきれない。

(委員) どれも素晴らしいと思うが、③はわかりやすくよい。

(委員) ①がよいと思うが、環境都市という言葉が東海市にはそぐわないような気がする。少し違和感を感じるため、③がよい。

(委員) ①か④がよい。②③は「環境と共生し」がいまいちピンとこない、理解が追いつかない。

(委員) ③も良いと思うが、④は少し長いがわかりやすい言葉であり、未来へつながっていくような印象を受ける。

(委員) ③がよい。事務局の説明を聞いて、第1, 2次の「未来をつなぐ」を継続し、さらに課題として挙げた方が良いと思った。

(委員) ③がよい。SDGsの16番目のゴールは緑であり、緑といえば環境という観点でみると③がよい。③については私も東海市も取り組んでおり、重視したい。

(委員) 良い環境も悪い環境もあるので、環境という言葉ではピンとこない。例えば住みやすい環境など、修飾語を入れるとわかりやすい。

(4) 報告事項

ア 令和6年度版 環境基本計画年次報告書

㊦ 事務局より説明【資料5】

㊧ 質疑応答

特になし

イ 令和5年度(2023年度) 大気測定結果

㊦ 事務局より説明【資料6】

㊧ 質疑応答

(委員) 以前は光化学オキシダントの注意報や警報が発令されていたと思うが、今もその制度はあるのか。

(事務局) 昨年度は1回発令している。

(5) 全体を通じての意見等

(会長) 東海市の沿岸部はすべて企業が立地しており、市民が立ち入れる場所もなく30%保全に向けた取り組みはなかなか難しいと思われるが、今後、海をどうしていくかも必要な視点である。

(委員) 名古屋港では、2050年のカーボンニュートラルポートの実現に向けて取り組みを進めており、浅場の醸成、風力発電などの再生可能エネルギーの活用による地球温暖化対策を進めている。環境配慮ツアーも実施しており、ぜひご参加いただき、名古屋港内の環境政策についてご理解いただきたい。